

第43回 南木曾町リニア対策協議会 開催

第43回南木曾町リニア対策協議会が7月17日に南木曾会館にて開催されました。

報告事項として、工事の進捗状況及び、南木曾町内の工事進捗および今後の見通しに関する説明会について、鉄道・運輸機構及びJR東海より報告がありました。

※協議会当日の説明資料は町のホームページをご覧ください。

報告事項

①工事の進捗状況について

(鉄道・運輸機構より)

広瀬工区では、トンネル掘削を行うためのベルトコンベアや土砂ピット等の仮設備の設置工事が進められ、7月22日(月)よりトンネル掘削が開始されました。

尾越工区では、延長約250mの斜坑の掘削が完了し、現在、本坑と斜坑の交点部の工事を行っています。トンネル掘削は、6月中旬から昼夜で作業を実施しており、夜間掘削の初期段階においての発破による騒音・振動に対する苦情があった旨、報告がありました。

工事等に関して、不安や心配事等のある方はJR東海等事業者にご連絡をお願いします。



また、発生土の運搬については、中津川方面に加え、7月8日(月)から飯田・下伊那方面への運搬を開始しています。

山口工区では、現在本坑を品川方へ約2,300m掘削しています。岐阜県と長野県の県境までの距離は、本坑の位置から約100mとなっています。

Q: 山口工区のトンネル湧水量及び、その評価はどうか。

A: 湧水量はトンネル全体で毎分2・4m³。他のトンネルと比較して、多くも少なくもない状況。

②南木曾町内の工事進捗および今後の見通しに関する説明会について

(JR東海より)

令和6年6月24日に広瀬地区、同25日に蘭地区、7月1日に妻籠地区の地元住民を対象に南木曾町内の工事進捗および今後の見通しに関する説明会を開催しました。7月下旬から予定している広瀬工区のトンネル掘削については、令和2年7月に工事説明会を実施してから期間が空いたことから改めて内容を説明しました。

尾越・広瀬両工区から発生する掘削土については、町内外の発生土置き場候補地及び活用候補地に運搬します。現時点での運搬車両台数は、最大で中津川方面250台、飯田・下伊那方面400台(どちらも往復の月別日平均)で運行する予定です。

町内における工事工程の見通しについては、尾越・広瀬両工区で見直しを行い、工事完了時期はそれぞれ尾越工区が2029年冬頃、広瀬工区が2030年冬頃の予定です。広瀬工区については、当初説明から約4年半の遅れとなります。工事工程の遅れの原因は、発生土置き場の確保に想定よりも時間を要し、掘削開始時期を見直したことや、昨年開始した尾越工区の斜坑掘削の進捗を踏まえ、地山掘削速度を見直したことなどによるものです。

その他、JR東海は「さわやかウォーキング」などのイベントを通して、南木曾町の観光振興に引き続き協力していきます。

広瀬工区現場見学会が開催されました

7月28日(日)に、広瀬工区左岸上流工事施工ヤードで、広瀬・蘭・妻籠地区の住民を対象としたトンネル掘削機械等の見学会(清水JV主催)が開催されました。約80名の住民が参加し、ドリルジャンボや25t重ダンプ等を間近で見学しました。

